附属特別支援学校におけるキャリア教育の実践研究の取り組み

附属特別支援学校　石川　則子

はじめに

本校では、平成２２－２５年度の４年間、キャリア教育の実践研究に取り組んだ。キャリア教育に取り組むに至った理由は、次の通りである。

○学校教育目標の実現
キャリア教育に取り組むことが、本校の学校教育目標「児童生徒の個別の教育的ニーズにこたえ、その成長と発達を支援し、充実した学校生活を通して、自ら学ぶ意欲をもち、日々の生きる喜びを感じ、将来の社会生活において主体的に生きていく人間の育成を目指す」の実現そのものである。
○これまでの本校の研究の取り組みについての課題
これまでは、全校で一つの研究主題の下に研究を進めてきたのだが、具体的な実践については、各学部ごとに取り組み、学部としての成果を上げてきた。そのため、小学部、中学部、高等部の学部間のつながりが十分ではなかったことが課題であった。キャリア教育は児童生徒のキャリアの連なりや積み重ねを重視しており、このことは、本校の研究の課題解決につながると考えた。

＜平成２２－２３年度の取り組み＞

研究主題　**児童生徒が主体的に生きる姿を目指した授業づくり**
－キャリア教育の視点を生かして－

１　目的

キャリア教育の視点から、卒業後の主体的に生きる姿につながる授業づくりについて明らかにすることを目的として、本研究を進める。そこで、各学部におけるキャリア発達を明らかにするとともに、小学部、中学部、高等部の取り組みがどのようにつながっているかについて検討する。

２　研究経過

（１）キャリア教育の視点
キャリア教育の視点、卒業後の願う姿、キャリア発達について、次のようにとらえた。

＜卒業後の願う姿＞	やりがいを感じ、自分の力を発揮して働き、楽しみをもって生活をする
＜キャリア教育の視点＞	視点１　小・中・高のつながりのある取り組み
	視点２　キャリア発達に関する願う姿の実現
	視点３　児童生徒の主体的な活動につながる授業づくり
＜キャリア発達のとらえ＞	今、主体的に活動する、その連続性の先に卒業後の主体的に生きる姿がある

（２）本校におけるキャリア発達に関する願う姿
国立特別支援教育総合研究所「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」を参考に、「キャリア発達に関する願う姿」を作成した。これにより、小学部、中学部、高等部、各段階のキャリア発達のつながりを明らかにした。なお、資料１は、平成２３年度に作成したものに修正を加えた平成２５年度版である。
（３）授業の実際
授業については、本校の教育課程の中心である生活単元学習、作業学習において検討を進めた。キャリア教育の視点を位置付けた授業として、単元・題材の目標と「キャリア発達に関する願う姿」との関連は次の通りであることを明らかにした（表－１）。また、単元・題材を通して見られた児童生徒の姿を表－２にまとめた。
（３）本校におけるキャリア教育の構造
授業実践から、生活単元学習、作業学習におけるキャリア発達について検討した結果、「キャリア発達に関する願う姿」の観点の内、【役割】【目標設定】【自己評価】【やりがい・生きがい】をど

表－１　単元・題材の目標と「キャリア発達に関する願う姿」との関連

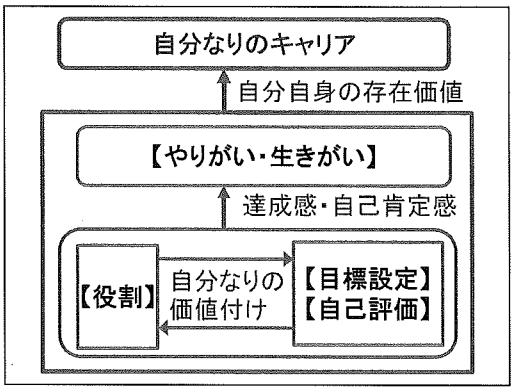
学部	指導の形態	単元・題材名	単元・題材の目標	対応する「キャリア発達に関する願う姿」
小学部	生活単元学習 ５・６年	つくし広場をつくろう② ～つくしパーティー（収穫祭）をしよう～ 10月12日～11月４日	つくしパーティーを睦寿会の方と一緒に行うことを楽しみにしながら、活動することができる。	【やりがい・生きがい】
			目標を意識しながら、自分の役割に最後まで取り組むことができる。	【役割】 【目標設定】【自己評価】
中学部	作業学習 クラフト班	クラフト作業Ⅳ 鉢カバー４０個を作ろう ～あにわ祭に向けて～ 10月３日～11月４日	鉢カバーづくりにおいて、自分の役割を理解し、主体的に取り組むことができる。	【役割】 【目標設定】【自己評価】
			「あにわ祭」に向けて、みんなで協力して４０個の鉢カバーを作り上げる。	【集団参加】 【やりがい・生きがい】
高等部	作業学習 受託班	フルーツキャップの組み立てⅡ 10月３日～３月９日	作業の流れを理解し、主体的に取り組む。	【やりがい・生きがい】 【集団参加】 【働くための習慣形成】
			納品に向けて製品を正確に作ることができる。	【役割】 【目標設定】【自己評価】
			場に応じて挨拶や報告、依頼をすることができる。	【場に応じた言動】 【意思表現】

表－２　単元・題材を通して見られた児童生徒の活動する姿

小学部	学習を積み重ねていく中で、見通しをもち、最後まで自分の活動に取り組む姿が見られた。
中学部	一人で作業に取り組めるような補助具を使うことで、見通しをもち、意欲的に作業に取り組む姿が見られた。
高等部	自分の目標を目標を意識して取り組み、作業の終わりに振り返ることで、次も頑張ろうとする姿が見られた。

の学部でも大切にして実践していることがわかった。

これらの観点の関連については、次のように考えた。児童生徒は、生活単元学習、作業学習の中で【役割】をもち、活動している。その【役割】について、【目標設定】をして【自己評価】をすることは、自分が、今、活動していることに対して、自分なりの価値付けをすることになる。その価値付けによって得られる達成感、自己肯定感は、【やりがい・生きがい】につながっていく。この積み重ねが自分なりのキャリアを築くことになると考える（図－１）。



図－１　生活単元学習、作業学習における「キャリア発達に関する願う姿」の関係

３　研究のまとめ

平成２３年１０月２９日（土）、第１８回学校公開研究会を実施した。研究の成果及び課題は次の通りである。

（１）成果

本校としてのキャリア教育の視点を明らかにし、「キャリア発達に関する願う姿」を作成したことは、職員の共通理解の下、小学部、中学部、高等部のつながりについて具体的に考えながら、授業及び研究に取り組むことにつながった。授業においては、ねらいが明確になり、児童生徒の主体的に活動している姿の実現につながった。

（２）課題

個別の指導計画の活用などを課題として挙げていたが、学校公開研究会における協議の中で、新たな課題に気付くことができた。

学校公開研究会では、分科会は学部ごとに設定したのだが、どの分科会においても、児童生徒の自己肯定感が協議された。これは、キャリア教育においては、自己肯定感が大切であること示唆し

ていると考える。そして、児童生徒の自己評価の在り方及び学習の積み重ねをとらえていくことの必要性も指摘された。

＜平成２４－２５年度の取り組み＞

研究主題　児童生徒のキャリア発達を支える授業
－目標設定と自己評価の取り組み－

１　目的

児童生徒が自分なりのキャリアを積み重ね、キャリア発達を実現していくためには、自己肯定感、達成感を確かなものとするが必要である。そのためには、児童生徒の活動、【役割】に価値付けをする【目標設定】【自己評価】について検討することが必要であると考えた。そこで、目標設定と自己評価に取り組み、キャリア発達を支える授業について検討を進めることにした。

２　研究経過

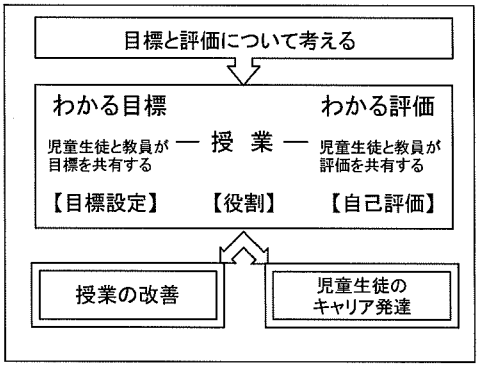
（１）キャリア発達を支える

前次研究を踏まえ、キャリア発達を支える取り組みが卒業後の生活につながることを明確にして、本研究では、キャリア発達を支える視点、キャリア発達について、次のようにとらえ直した。

＜キャリア発達を支える視点＞	視点１　卒業後の生活に向けた小・中・高のつながりのある取り組み
	視点２　キャリア発達に関する願う姿の実現
	視点３　児童生徒が自分の力を発揮する活動につながる授業づくり
＜キャリア発達のとらえ＞	自分の力を発揮して活動する経験を積み重ね、広げていく
	そのことで、やりがいを感じ、楽しみをもった生活につなげていく

（２）「わかる目標」「わかる評価」

児童生徒のキャリア発達を実現するために、目標と評価を児童生徒と教師が共有していきたいと考えた。そのためには、教師が、児童生徒に目標をわかるように伝え、目標に向けてともに活動し、その結果をわかるように伝える必要がある。そこで、「わかる目標」「わかる評価」を授業の手立てとして取り組むことにした。これは、児童生徒のキャリア発達の実現と授業改善につながるものであると考える（図－２）。



図－２　「わかる目標」「わかる評価」とキャリア発達、授業改善との関連

（３）授業の実際

前次研究に引き続き、小学部生活単元学習、中学部、高等部作業学習において検討を進めた。

各学部の「わかる目標」「わかる評価」のおもな具体的な実践については、表－３、４に示す。また、目標設定と自己評価の取り組みを通して見られた児童生徒の姿を表－５に示す。

目標設定、自己評価を明確に位置付けて授業を行うことは、目標を明確にすることで、児童生徒の活動に対して具体的に評価することになり、児童生徒の達成感、自己肯定感を確かなものにすることができた。このことが、児童生徒のキャリア発達につながっていると考える。

（４）教育課程のねらい、年間指導計画の見直し

授業実践を進めていく中で、目標を明確にしていくことが必要となり、生活単元学習、作業学習の教育課程のねらい及び年間指導計画について見直しを図った。このことにより、教育課程のねらい、授業のねらい、個別の指導計画の目標の関連付けを整理して実践することができた。

表－３　「わかる目標」「わかる評価」のおもな実践

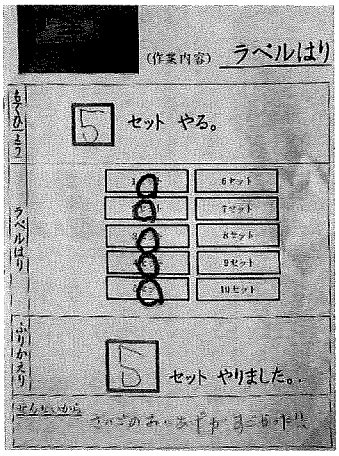
小学部	・ビッグカレンダー　・思い出カード　・生活ノート
中学部	・がんばりカード　・作業ノート　・販売活動を取り入れた活動内容
高等部	・学期の目標と評価（掲示用の目標）　・きょうの目標と評価（黒板の目標） ・始めのミーティング　・終わりのミーティング　・作業日誌　・確認表

表－４　「わかる目標」「わかる評価」の実践例

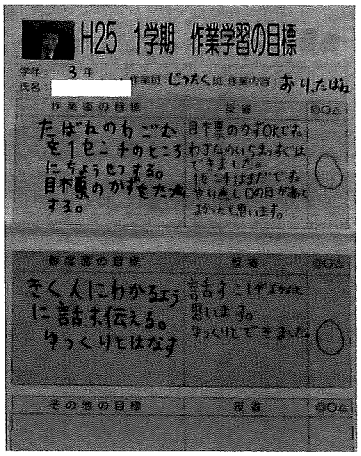
＜小学部＞
ビッグカレンダー

思い出カード

＜中学部＞
がんばりカード



＜高等部＞
掲示用学期の目標・評価



表－５　目標設定と自己評価の取り組みを通した児童生徒の姿

小学部	教師が、児童にわかるように活動内容を提示し、適切に児童の姿を見取ってわかる評価として返していくことで、児童は、活動に楽しんで取り組む（低学年段階）、意欲的に取り組む（中学年段階）、最後まで取り組む（高学年段階）ことができた。
中学部	教師が、題材の目標（全体で目指すゴール）を明確に提示し、生徒自身が自分の目標と振り返りがわかるように一人一人に合わせた工夫をすることで、生徒は日々のできたことを積み重ね、活動を最後までやり遂げることとなり、活動に対する達成感を得ることにつながった。
高等部	生徒は、教師の支援を受けながら目標を設定し、達成に向けて活動に取り組み、教師の支援を受けながら自分の活動を評価することで、よかった点や改善点を次の活動に生かしていた。この積み重ねにより、自分の現状をわかって作業に取り組むようになり、作業に対する意欲が高まった。

３　研究のまとめ

平成２５年１１月３０日（土）、第１９回学校公開研究会を実施した。研究の成果及び課題は次の通りである。

（１）成果

目標設定と自己評価に取り組み、「わかる目標」「わかる評価」を授業において実践することで、児童生徒のキャリア発達の実現と授業の改善につなげることができた。この取り組みにより、教育課程、授業、個別の指導計画の関連を明らかにすることができた。

（２）課題

課題として、小学部、中学部、高等部の学習の積み重ねについて、生活単元学習、作業学習から教育活動全体に広げていくことを検討することも必要ではないかと考える。学校公開研究会における協議の中でも、生活単元学習、作業学習に焦点化していることについて指摘を受けた。

おわりに

本校では、小学部、中学部、高等部のつながりが大事であると考え、キャリア教育の研究に４年間取り組んできた。キャリア教育の実践研究を進めていく上で、学部縦割りグループ協議を新たに実施、研究主題の在り方の検討など、これまでの研究の取り組み方を見直した。本校の課題の一つに迫ることができたと考える。また、「キャリア発達に関する願う姿」に学校教育目標を位置付け、日々の授業が学校教育目標の実現に向かうものであることを明確にすることができたと考える。

今後も、児童生徒が卒業後の社会の中でやりがいを感じながら生活することにつながるように、本校の教育活動一つ一つについて考え、実践を深めていきたい。

＊本研究の取り組みの詳細（研究紀要等）については、本校ホームページ上で公表している。

＜資料１＞

キャリア発達に関する願う姿　（平成２５年度）

[学校教育目標]
児童生徒の個別の教育的ニーズにこたえ、その成長と発達を支援し、充実した学校生活を通して、自ら学ぶ意欲をもち、日々の生きる喜びを感じ、将来の社会生活において主体的に生きていく人間の育成を目指す

[目指す児童生徒像]
1　豊かな心と丈夫な体を作る人
2　生活に必要な技能を高め、意欲をもって活動する人
3　みんなと仲良く協力し合い、生活の中に楽しみをもてる人
4　自ら進んで仕事をし、働くことに生きがいをもてる人

[各学部目標]

小学部	中学部	高等部
1　元気に生き生きと活動する児童 2　身近なことに関心をもち、意欲的に生活する児童 3　みんなと仲良く、協力し合って活動する児童 4　手伝いや係活動などをすすんでする児童	1　丈夫な体をつくり、すこやかな心をもつ生徒 2　生活に必要な基礎的な事柄を身に付け、主体的に活動する生徒 3　みんなと協力して楽しく意欲的に活動する生徒 4　自分の役割や仕事を最後までがんばる生徒	1　豊かな心をもち、健康でたくましい生徒 2　社会生活に必要な知識、技能を高め、主体的に社会参加する生徒 3　周りの人に自分からかかわり、みんなと協力し合える生徒 4　働くことの意義を理解し、最後までやり遂げる生徒

	※1	※2	観点	小学部の願う姿			中学部の願う姿	高等部の願う姿
人とかかわること	「人間関係形成能力」	「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」	【意思表現】	●日常生活に必要な意思の表現を行う。			●自分の思ったことを相手に伝えようとする。	●自分の思いや考えを伝えたり、必要な支援を適切に求めたりする。
			【集団参加】 ・仲間意識　・自己理解 ・他者理解	●教師や友達とやりとりをしたり、集団へ参加したりする。			●教師や友達とともに活動し、集団の中で自分らしさやもっている力を発揮する。	●社会の一員として活動し、良好な人間関係をつくる。
			【場に応じた言動】 ・挨拶、返事・協調　・適応	●挨拶、返事をする。			●状況に応じた言動をする。	●場や状況に応じた言動をする。
働くこと・生活すること	「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」	「キャリアプランニング能力」「課題対応能力」	【働くための習慣形成】 ・基本的生活習慣　・体力 ・職業生活に必要な生活習慣	●生活リズムを整え、基本的生活習慣を身に付ける。 ●すすんで運動に取り組む。			●一人でできる基本的生活習慣を増やす。 ●活動をやり遂げる体力を身に付ける。	●職業生活に必要な習慣について知り、実行する。 ●職業生活に必要な体力を身に付ける。
			【様々な情報の活用】 ・見通し　・情報収集と活用	●日常生活でのおおよその予定や活動に対する見通しをもつ。			●生活に必要な情報を知り、活用する。	●社会の様々な情報やサービスについて知り、活用する。
			【ルール・マナー】	●学校のきまり、日常生活の約束事を知って守る。			●集団生活のルールやマナーを守って行動する。	●社会の法律やきまり、ルールやマナーについて理解し守ろうとする。
			【金銭】 ・金銭の扱い　・労働と報酬	●お金の大切さを知り、お金のやり取りをする。			●体験を通してお金の役割を知り、使い方が分かる。	●働くことと給料、生活の中のお金の使い方について理解する。
			【自己選択】 ・選択、好き　・自己決定	●自分の好きな遊びや活動を選ぶ。			●自分のやりたいことや、良いと思うことを選び実行する。	●経験や情報を基に、自分の意思と責任で選び、行動する。
			【役割】	●生活の中の自分の役割を知り、実行する。			●集団の中の自分の役割を理解し、実行する。	●社会生活の中で、自分の役割や分担を理解し実行する。
			【目標設定】 ・目標意識　・目標設定	●目標を意識し、活動する。			●目標を意識し、達成に向けて活動する。	●自分の目標を設定し、達成に向けて活動に取り組む。
			【自己評価】 ・気付く、考える　・自己肯定感 ・自分なりの工夫　・振り返り ・自己調整	●認められたり、ほめられたりすることにより自分の良さに気付く。 ●活動の振り返り、一日の振り返りをする。			●がんばったことを振り返り、次の活動につなげる。 ●活動場面で自分なりに気付き、工夫して行動する。	●自分の活動を振り返り、良かった点や改善点を把握し、次の活動に生かす。 ●自分の課題に気付き、解決しようとする。
			【やりがい・生きがい】 ・楽しみ、やりがい ・意欲、達成感 ・思い描く	●活動を楽しみにし、楽しんで活動する。（低）	●活動を楽しみにし、意欲的に取り組む。（中）	●活動を楽しみにし、最後まで取り組む。（高）	●活動を最後までやり遂げ、達成感を得る。	●自分の仕事に最後まで取り組み、やりがいを感じる。 ●働くことと余暇とのつながりを理解し、余暇を活用する。 ●将来の生活を思い描く。

卒業後の願う姿
社会の中で、やりがいを感じ、自分の力を発揮して働き、楽しみをもって生活する

※1＝国立特別支援教育総合研究所　「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」より　　※2＝中央教育審議会答申より（平成23年1月）参考